

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきしゃだんほうじんかんぜきゅうこうかい		団体ウェブサイトURL
	公益社団法人観世九阜会		https://yarai-nohgakudo.com/
代表者職・氏名	理事長 観世喜正		
制作団体所在地	〒 162-0805	最寄り駅(バス停)	東京メトロ東西線神楽坂駅
	東京都新宿区矢来町60番地		
電話番号	03-3268-7311		
ふりがな 公演団体名	こうえきしゃだんほうじんかんぜきゅうこうかい		団体ウェブサイトURL
	公益社団法人観世九阜会		https://yarai-nohgakudo.com/
代表者職・氏名	理事長 観世喜正		
公演団体所在地	〒 162-0805	最寄り駅(バス停)	東京メトロ東西線神楽坂駅
	東京都新宿区矢来町60番地		
制作団体 設立年月	昭和27年9月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	【代表理事】 観世喜正 【常務理事】 2名 弘田裕一、駒瀬直也 【他 理事】 9名 【監事】 2名 【法人社員】 33名(個人会員・能楽師) 【事務局】常勤職員4名、非常勤職員6名		【社員】(個人会員・能楽師)33名 【入会資格】 (公益社団法人観世九阜会 定款第6条より抜粋) 1) 正会員この法人の目的及び事業に賛同して入会した、満20歳以上で、観世流の能楽師個人。
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	芝田 裕之
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	瀬木 さとみ
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	<a href="mailto:yarai_s@abeam.ocn.ne.jp">yarai_s@abeam.ocn.ne.jp</a>		

制作団体沿革	明治40年 観世九阜会設立 明治44年 神田西小川町にて能舞台を構える 昭和5年 現在地の神楽坂に本拠地を移転 昭和27年 社団法人の認可を受ける 平成24年 公益社団法人の移行認定を受ける			
学校等における公演実績	文化服装学院校外教室 (昭和33年より60年以上毎年開催) 日本女子大学付属中学校 能狂言鑑賞会(昭和58年より約40年間毎年開催) 新宿区牛込地区小学校 能狂言鑑賞会(昭和59年より約40年間毎年開催) 日本外国語専門学校 (平成24年より11年間毎年開催) 穎明館中学校 能狂言鑑賞教室(約10年間毎年開催) 三輪田学院高等学校 能狂言鑑賞教室(約5年間毎年開催) 長崎の子供達へ能楽を. (長崎県教育委員会・高等学校生徒が伝統芸能に触れる機会促進事業 / 平成16年より受託) 等、講座を含め多数実施			
特別支援学校等における公演実績	特になし			
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	有		
	※公開資料有の場合URL	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=lywAa9w4gtw">https://www.youtube.com/watch?v=lywAa9w4gtw</a>		
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	なし	
		PW:	なし	

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 公益社団法人観世九阜会 】

対象	小学生(低学年)	○	/	
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	能楽を学んでみよう			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>①仕舞「土蜘蛛」(仕舞形式・能「土蜘蛛」の前半部分を上演) 上演時間 (5分)</p> <p>②能「土蜘蛛」(半能形式・全2幕のうち後半の第2幕を上演) 原作/作曲/脚本等:作者未詳(典拠「平家物語」剣巻) 上演時間 (20分)</p> <p>③狂言「柿山伏」 原作/作曲/脚本等:作者未詳 上演時間(15分)</p> <p>④ワークショップほか 解説 (10分)・楽器体験 (20分)・狂言所作体験(20分)・質問応答(10分)</p> <p style="text-align: right;">公演時間 100 分</p>			
著作権、上演権利等 の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	内部保有
演目概要	<p>①能「土蜘蛛」 《前半部分》 病に臥せている源頼光(みなもとのらいこう)のもとに怪しげな僧が現れる。不審な者の訪れに警戒する頼光、すると怪しげな僧は巨大な蜘蛛となって頼光めがけ蜘蛛の糸を投げかける。咄嗟に枕元に置いていた源氏重代の太刀「膝丸」を抜き蜘蛛を斬りつけると、傷を負った蜘蛛は姿を消す。 (本公演では、前半部分の見どころを仕舞という形式で上演します)</p> <p>《後半部分》 頼光に仕えている独武者(ひとりむしや)は、供の武士を伴い土蜘蛛の棲む塚に赴く。現れた妖怪土蜘蛛との戦い。次々に繰り出される千筋の蜘蛛の糸…しかし、ついには土蜘蛛も独武者たちによって退治される。 (本公演では独武者と供の武士たちが土蜘蛛を退治しにゆく、後半部分を能の形式で上演します)</p> <p>②狂言「柿山伏」 畑の柿を山伏に盗み食いされた畑主が、柿の木の梢に隠れた山伏に「あれはカラスだ」「いやサルだ」といって、散々に鳴きまねをさせる。ついには「鳶だ」といわれ、山伏は木から飛んでみるが転落。足腰を痛めた山伏は畑主に治療を求めるが…。神通力を持つはずの山伏が滑稽に描かれる。</p>			
演目選択理由	<p>①能「土蜘蛛」 ・当法人(観世九阜会)では、近隣小学6年生を30年以上「土蜘蛛」で招待公演を続け、視覚と音楽で十分に楽しめることを実証しています。児童教師共に好評を得ている、実績に基づいた演目です。 ・古典の言葉を用いて上演される能楽は、大人でも「難しい」と思われがちですが、鬼退治のわかりやすい物語と、蜘蛛が糸を投げる見た目の華やかさ、迫力ある囃子の演奏で、児童・生徒たちに能楽の面白さを伝えます。 ・そこから古典の文学や音楽の世界に興味を持ち、関心を高めてゆくことが期待できます。</p> <p>②狂言「柿山伏」 ・内容がわかり易く、形態模写や、狂言の本質である「おかしみ」「滑稽さ」を存分に生かしており、小・中学生にも十分理解し、楽しむことができる演目です。</p>			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>【能と狂言の鑑賞】 ・仕舞「土蜘蛛」(前半)、能「土蜘蛛」(後半)と狂言「柿山伏」を鑑賞します。</p> <p>【楽器体験】(別添資料あり1) ・教科書には掲載されているが、日頃音楽の授業で使われる楽器とどれほど違うかなどを、演奏者の実演と楽器の説明を聞く事によって、和楽器の魅力に触れられます。 ・その後、代表の生徒には実際の楽器で、ほかの生徒にはそれぞれの楽器に合わせ、手拍子などで能の音楽を合奏する体験をしていただきます。</p> <p>【狂言体験】(別添資料あり・別添No.1) ・おおらかな笑いの芸術である狂言の所作を、鑑賞した「柿山伏」で登場する動物の物まねや、狂言独特の笑いの所作等を全員に体験していただきます。</p>			

<p style="text-align: center;"><b>出演者</b></p>	<p>①能「土蜘蛛」 シテ方: 観世喜正、弘田裕一、駒瀬直也、中所宜夫、遠藤和久、奥川恒治、遠藤喜久、鈴木啓吾、永島充、佐久間二郎、坂真太郎、長山耕三、桑田貴志、中森健之介、新井麻衣子、奥川恒成、石井寛人、金子仁智翔(この中から公演期間によりシテ方11名を選定) ワキ方: 殿田謙吉、大日方寛(公演により出演者が変わります) 囃子方: 竹市学、幸正昭、亀井広忠、大川典良(公演により出演者が変わります) ②狂言「柿山伏」 狂言方: 善竹大二郎、大藏教義、川野誠一(公演により出演者が変わります)</p>		
<p style="text-align: center;"><b>本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む</b></p>	<p style="text-align: center;">出演者:   20   名 スタッフ:    1   名 ----- 合 計:   21   名</p>	<p><b>運搬</b></p>	<p>積載量:   0.35   t 車 長:    3    m 台 数:    1    台</p>

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	12:00	12:00～13:00	13:30～15:10	10分	15:20～15:50	16:00

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安  ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	20日	20日	14日	20日	20日	
	11月	12月	1月	計	145日	
	20日	15日	16日			
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	体験代表生徒数:12名
		鑑賞人数目安	体育館または会場の入場可能人数まで

舞台は、体育館の広さや、鑑賞人数により、ステージ上、フロア上のいずれに設置するか、実施校様と相談の上、決めさせていただきます。  
演目の上演の様子は「別添」資料を参照ください。

(図1)フロア上に舞台を設置した様子



公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出がわかる写真)

(図2)ステージ上に舞台を設置している様子。  
ステージ上に舞台を設置する場合に必要な面積:幅10m×奥行4m以上



※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

【公演団体名 公益社団法人観世九阜会 】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	体育館または会場の入場可能人数まで
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>【能楽についてレクチャー】 能楽についてレクチャーします。(別添資料あり)</p> <p>&lt;テキスト&gt; 能楽の理解を深めるため、事前ワークショップの内容に合わせたテキストを使用いたします。 配布テキストに沿って能楽の歴史についての簡単な解説。</p> <p>&lt;あらすじ、みどころ&gt; 能『土蜘蛛』について、小・中学生にも理解しやすいように、生徒にも好評の紙芝居形式で解説します。</p> <p>【体験】 レクチャーの後、実際に体験していただきます。(別添資料あり)</p> <p>&lt;謡(うたい)の体験&gt; 謡曲『土蜘蛛』の一節を全員で謡い、発声や発音、言葉(古語)を学びます。</p> <p>&lt;すり足体験&gt; 生徒全員で能の舞の基本となる身体の構えと足の運び(すり足)で美しい姿勢で歩く体験をします。</p> <p>&lt;クラフト作業&gt; 生徒全員で厚紙の太刀を作成し、その作った太刀を使って、先生が投げる蜘蛛の糸を斬る体験をします。 舞台未経験の人たちで演じる、劇の一部分はより身近で、親しみを持ちやすく、能動的に興味を持つことが、期待されます。</p> <p>&lt;能面をつける&gt; 代表の生徒には、能面を掛けて歩く体験をします。 極度に制約された視野で如何にして能役者が舞台上で舞っているかを感じていただきます。</p> <p>【成果】 これまでの実施校では、ワークショップでの体験により、「謡」(セリフ)を生徒がロズさむなど、身近なものとなり、理解が深まっております。また、謡の体験による、腹式呼吸での正しい発声は、意思を明確に伝える等、将来的に様々な場面で、大いに役立つものと思われれます。</p>		
ワークショップの ねらい	<p>《伝統芸能を身近に》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・能の言葉は、古典の文語体であることで、馴染みがうすく、聞き取りづらさは否めませんが、言葉をひも解き、作品の背景や内容を知れば、小学生も理解し楽しむことができます。内容を理解した上で「謡」で声を出し、身体パフォーマンスである「舞」の基本を体験することで、古典を身近に感じ、本公演でのより充実した鑑賞と深い理解により、日本の古典芸能への認識と興味が得られます。</li> <li>・事前ワークショップ、本公演を通じて、能、狂言はもとより、謡(発声)、能面、型(所作)、楽器と能楽全体を遍く体感することができます。参加者はそれぞれが自分の興味ある部分を見つけられ、伝統芸能に親しむ事ができます。</li> </ul>		
その他ワークショップに 関する特記事項等	<p>《先生方の授業への活用として》 小学校、中学校の授業で、狂言や能が取り上げられていますが、実際の上演をご覧になられた方が少ないかと思えます。この機会に、ワークショップのみならず本公演にも、実施校から近隣の学校の国語、音楽等の先生にもお声がけいただき、見学することで授業に活用できるよう取り組んでおります。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名

公益社団法人観世九阜会

】

## ①本事業に対する取り組み姿勢

《日本を代表する芸能を未来へ》

## ●伝統芸能を鑑賞する機会として。

・およそ650年の歴史を有する日本の伝統芸術である能楽は、現在、音楽や国語の教科書に取り上げられています。しかしながら、小・中学生ばかりでなく、先生方も能楽を鑑賞・体験する機会がなかなか得られないのが現状です。

## ●子供たちの感性を引き出す機会として。

・本事業を通じ、能と狂言を学び楽しむことで、能楽の想像力、空想力を学び、古今変わらぬ人のつながりや行動を知り、古に思いをはせ、子どもたちの心と身体に豊かな感性を引き出す一助となることを目指します。

・さらに訪日外国人の増加や、海外の方と触れ合う機会が増えていること、また日本人が海外で活躍することも増えているなかで、子供たちが自国の伝統文化について話をする事ができる「学び」の良いきっかけとなるように導きます。

## ●授業の補助として。

先生方も実際に能楽を体験・鑑賞することで、以後の授業にその経験を活かすことができると考えます。また将来的に海外で活躍する機会も増えてくることを鑑み、自国の伝統文化を身に着ける機会として活用できます。

《豊かな実績に基づく質の高い公演の実施》

## ●実施団体としての実績。

・(公社)観世九阜会では、前理事長である観世喜之が、数十年に渡り地元の小学生のための能楽鑑賞教室を主催するなど、能楽の普及活動にも豊富な経験と実績があります。

・理事長である観世喜正をはじめ、観世九阜会所属の能楽師(重要無形文化財総合指定15名を含む19名)が、当事業に積極的に参加及び出演することで、質の高いワークショップ、本公演を行うことが可能です。

## ②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

《豊富な経験によるスムーズな運営》

## ●豊富な学校公演の実績

・出演者、およびスタッフについても、学校公演の実施に豊富な経験を持っており、事前ワークショップ、本公演をよりスムーズに実施することが可能です。

・平成27年度より毎年「文化芸術による子供の育成事業～巡回公演事業～」を実施、また平成31年度よりB区分に採択していただいた経験を踏まえ、より円滑に事業を進めるスキルを取得しています。

・実施校との交渉や、実施にあたっての相談等も、観世九阜会事務局が窓口として全面的にサポートを行い、円滑に運営することができます。

また事前ワークショップ、本公演については所属能楽師が臨機応変に対応することが可能です。

## ●実施校の負担を軽減。

・体育館や講堂など、一定のスペースが取れる会場があれば、出演者と少数のスタッフにより1時間程度の短時間で簡易舞台を設えて、撤収についても1時間以内で完了するため、体育館等の占有時間を短くでき、授業への影響も最小限で公演を実施することができます。

## ●分かりやすい教材と指導

・オリジナルのテキストを用意し、事前に学校へ配布することで、より理解しやすくなり、効果的にワークショップ、本公演を楽しんで頂くことが可能です。

・ワークショップでは主指導者のほか、補助員についても主指導者と同等のスキルを有する者がサポート致しますので、スムーズに進めることが可能です。

・テキストについては、フィードバックシートに記載された要望を取り入れ、事前ワークショップ

本事業に対する  
取り組み姿勢、および  
効果的かつ円滑に実施  
するための工夫

リンク先

No.2

【公演団体名

公益社団法人観世九阜会

】

1. 【演目の鑑賞】

①能「土蜘蛛」、狂言「柿山伏」の実演を鑑賞します。



能「土蜘蛛」鑑賞の様子

本公演の様子



狂言「柿山伏」鑑賞の様子

リンク先	No.2	【公演団体名	公益社団法人観世九阜会 】
本公演の様子	<p>2. 【楽器体験】</p> <p>①能楽の楽器体験では、代表の生徒は実際の楽器を体験します。 その他の生徒は自分の手を楽器に見立て、大鼓と小鼓のパートに分かれて演奏し、代表生徒の楽器と合奏します。</p> 	<p>3. 【狂言体験】</p> <p>①生徒全員で、狂言「柿山伏」で登場する動物の物まねや、狂言の笑い方など、狂言独自の所作を体験します。</p>  <p>狂言「柿山伏」の一場面、柿をもぎって食べる所作を体験している様子</p>	



リンク先	No.3	【公演団体名	公益社団法人観世九阜会 】
事前ワークショップの様子	<b>2.【体験】</b>		
	①全員で、能楽師の指導のもと、すり足を体験します。		
			
	②代表の生徒には「能面」をつけて歩く体験を、 その他の生徒には能面を着けて動いた時にどのように見えるかを観察して頂きます。		
			
③能「土蜘蛛」の所作体験では、土蜘蛛の糸を先生が投げ、生徒は作成した厚紙の太刀で斬る所作を体験します。			
			